

令和 8 年 6 月 2 日

社会福祉法人 健祥会
理事長 中村 太一 殿

専門学校 健祥会学園
学校関係者評価委員会
委員長 加藤 真介

学校関係者評価委員会報告

令和 7 年度学校関係者評価について、次のとおり評価結果を報告いたします。

1. 学校関係者評価委員

加藤 真介（徳島赤十字ひのみね医療療育センター 園長
徳島赤十字ひのみね医療療育センター附属支援施設 園長）
田村 修司（徳島県介護福祉士会 会長）
若松 義明（専門学校健祥会学園 後援会 会長）
渋谷 律香（専門学校健祥会学園 同窓会）
樽見 義（前 社会福祉法人鴨島ひかり会 理事）

2. 学校関係者評価委員会の開催状況

開催日時：令和 8 年 5 月 27 日(水) 14:00~15:00
開催場所：専門学校 健祥会学園 本館 4 階 補装具室

3. 学校関係者評価委員会報告

別紙のとおり

1. 各評価項目について

会議の冒頭、今回の自己点検評価表に関する質疑応答が行われた。

全体事項（自己点検評価表の書式について）

質問：自己点検評価の書式上部にある「結果は、基準を満たすかどうかではなく、基準を満たしているかを3段階で記載」という表現が分かりにくい。

回答(学園)：文部科学省が提示している書式をそのまま使用している。評価数値に記載の通り、基準を超えた特筆すべき取組がある場合を「3」として評価している。

(Ⅰ) 教育理念・目的・目標について

質問：今後の改善方策の「これら理念体系を基盤とした教育活動の成果を客観的なエビデンス（評価データ）とともに社会へ還元し…」の客観的なエビデンスとはどういうデータか。

回答(学園)：就職率や国家試験合格率はすでに公開しているが、企業と連携した授業がどのように成果を上げているかなど、教育効果や成果を可視化（見える化）していきたいと考えている。

(Ⅱ) 教育課程、教育の実施、学修成果について

自己評価が厳しすぎるのではないか。「3」としてよい項目もあると思われる。特筆すべき取組をどのように捉えるかが重要であるため、今後は具体的な評価基準をあらかじめ策定しておく必要がある。そのような基準を作成・運用することで、本項目の評価も「3」に引き上げることが可能になると考える。

(Ⅲ) 学生の受入れ、学生の支援について

広く門戸を開いている点は本学園の大きな特長であり、自己評価が厳しすぎる印象を受ける。例えば、入学前にオリエンテーションを行っているとのことだが、これは十分に特筆すべき取組である。最低基準以上の成果を上げているため、評価は「3」が妥当ではないか。

(Ⅳ) 教育実施組織・教員について

意見なし

(Ⅴ) 教育環境について

健祥会学園としてスタンダード（標準）と捉えていることが、世間一般の基準を大きく上回っている可能性がある。例えば、タブレット端末の貸与などは特筆すべき

取組と言える。現在は理学療法学科・作業療法学科の学生のみへの貸与であるため、学園全体の評価として 1 箇所にとめる難しさはあるものの、十分に特筆すべき教育環境であると評価できる。

(VI) 教育活動の基盤と改善・向上の取組について

意見なし

令和 7 年度重点目標について

(1) 入学生の確保

広報委員会を開催し、高校訪問、SNS の積極的活用、オープンキャンパスの充実、地域活動への参加等の学生募集体制の強化を図った。今後も入学生を確保するため、新たな取組を展開し、学生募集体制の強化を継続していく必要がある。

(2) 国家試験の合格と教員のレベルアップ

模擬試験、補習授業、グループ学習対策講座等を実施しており、引き続き国家試験の受験率及び合格率の推移を見ると、確かな教育効果が認められる。また、教員のレベルアップについても、各職能団体主催の学会や養成校協会による研修会へ積極的に参加しており、継続的な資質向上が図られている。

(3) 日本語学科の設置

令和 6 年度より各省庁への申請や受け入れ環境の整備等を進め、令和 8 年 4 月に予定通り開設した。令和 7 年 11 月からの学生募集であったが、100 名以上の応募があり、選考の結果、内 22 名が入学するに至った。